



パラリンピックのレジェンドに倣って

校長 阿南 孝也

8月24日から東京パラリンピックが始まります。1964年の第18回東京オリンピックの折にも、第2回パラリンピックが開催されたそうですが、当時小学4年生だった阿南少年の記憶には残っていません。「パラリンピック」は当初“paraplegia”（両下肢のまひ）と“Olympic”の合成語として、日本人の発案で生まれた愛称だったそうです。

その後、車椅子競技に加えて、目の不自由な人など障がいを持つ人が幅広く参加できる競技として発展し、“parallel”（並行の）との造語として「もう一つのオリンピック」との意味が込められ、2000年のシドニー五輪以降、正式に同一都市で開催されるようになりました。

成田真由美さんは、競泳のリレーメンバーとして選出されました。通算6大会目の代表入りです。これまでに、金15個を含むメダル20個を獲得したパラリンピックのレジェンドです。脊髄炎のため13歳で両足が動かなくなった成田さんにスポーツの道が開けたのは23歳の時でした。「リレーのメンバーが足りないから」と誘われた障がい者水泳大会で優勝。水との出会いが彼女の進む道を大きく変えたのです。50歳を迎えた成田さんは、東京五輪・パラ大会組織委員会理事を務めながらの出場です。

体温調節に欠かせない発汗作用が失われている成田さんは、体内に熱がこもり、全身が熱くなって初めて「暑い」と感じるのです。そのため練習時間は1時間以内と決められているそうです。冷水で体を冷やししながら、残された機能をフルに使って戦えるよう、練習に工夫を凝らしているのです。

私たちが見習うべきことは、成田さんのように、神からいただいた能力を生かし、目標を定めて、その目標に向けて一歩ずつ歩いていくことです。「失ったものを数えるのではなく、得たものを数えていく人間になりたい。」成田さんのこの言葉を心に留めながら、一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

引き続き、新型コロナウイルス感染予防に努めましょう。また熱中症への備えも怠ることができません。夏期休暇は、補習や講習を生かして、弱点の強化を図る絶好の機会です。高校3年生の皆さん、じっくりと着実に力をつけてください。高校2年生以下の皆さん、規則正しい生活を心掛け、計画的な学習を通じて、本物の学力を身につけましょう。

クラブ活動では、培った実力を十分に発揮してください。応援しています。また文化祭への準備が進むことを期待しています。

夏期休暇が、皆さんの持つ能力を見出し、磨き伸ばす機会となることを願っています。